

キヤノンの歩み

● 経営・事業に関する出来事 ● 製品に関する出来事

1930-40年代

世界一のカメラをめざして

1933	● 東京市麻布区六本木に高級小型写真機の研究を目的とする精機光学研究所開設	 KWANON
1934	● 35mmフォーカルプレーンシャッターカメラ「KWANON (カンノン)」試作	 ハンザキヤノン
1935	● 商標 Canon 出願	
1936	● 国産初の35mmフォーカルプレーンシャッターカメラ「ハンザキヤノン」発売	
1937	● 精機光学工業株式会社として創業	
1939	● レンズ(セレナーと命名)の自社生産に着手	
1940	● 国産初のX線間接撮影カメラを開発	 X線間接撮影カメラ
1942	● 御手洗毅、精機光学工業株式会社社長に就任	
1945	● 35mmフォーカルプレーンシャッターカメラ「普及型(J II)」の生産再開	
1946	● 銀座カメラサービスステーション開設 ● 戦後初のカメラ新製品「キヤノンS II」発売、進駐将兵、来日バイヤーに好評を博す	 御手洗 毅
1947	● キヤノンカメラ株式会社に社名変更 ● 貿易再開に際し、貿易最適輸出品に指定される	
1949	● 証券取引所再開と同時に株式を上場 ● 全米カメラ展示会で「キヤノンII B型」が1等賞受賞	 下丸子本社工場

1950-60年代

グローバル化・多角化に挑戦

1951	● 東京都大田区下丸子に本社、工場を集結	
1952	● 世界初のスピードライト同調35mmフォーカルプレーンシャッターカメラ「IVSb」発売	
1955	● ニューヨーク支店開設	
1956	● 8mmシネカメラ「8T」発売	 8T
1957	● スイスに欧州総代理店、キヤノンヨーロッパ開設 ● スチルカメラ「L1」、8mmシネカメラ「8T」が、日本初のグッドデザイン商品の選定を受ける	
1958	● TVカメラ用フィールドズームレンズを発売	
1961	● レンズシャッターカメラ「キヤノネット」発売、爆発的な売上を記録	 キヤノネット
1962	● 第一次5カ年計画を策定、事務機分野への本格的取り組み開始 ● パナマに中南米総代理店、キヤノンラテンアメリカ開設	
1963	● キヤノンSAジュネーブ(スイス)設立、総代理店制を廃止し、キヤノン本社直属の販売体制スタート	 キヤノーラ130
1964	● 世界初のテン(10)キー式電卓「キヤノーラ130」発売	

1965	● キヤノンUSA設立	 POCKETRONIC
1967	● 創立30周年、「右手にカメラ、左手に事務機」をスローガンに多角化を推進 ● 現地法人キヤノンラテンアメリカ設立	
1968	● キヤノン事務機販売(現キヤノンマーケティングジャパン)設立 ● キヤノナムステルダムNV(現キヤノンヨーロッパNV)設立 ● 独自の電子写真方式「キヤノンNPシステム」発表、普通紙複写機分野に進出	 NP-1100
1969	● キヤノン株式会社に社名変更 ● キヤノンカメラ販売設立、国内カメラ販売体制強化 ● 世界初の蛍石採用レンズを発売	 PPC-1

1970年代 多角化の推進 優良企業をめざして

1970	● 日本以外で初の生産拠点、台湾キヤノン設立 ● パーソナル電卓市場に進出 ● 国産初の普通紙複写機「NP-1100」発売 ● 国産初の半導体露光装置「PPC-1」発売	 F-1
1971	● キヤノン事務機販売、キヤノンカメラ販売を一本化、キヤノン販売株式会社スタート ● 最高級一眼レフカメラ「キヤノンF-1」、FDレンズを発売	 前田 武男
1972	● ドイツにヨーロッパ初の生産拠点、Physotec GmbH(現キヤノングーセン)設立 ● 世界初の液乾式普通紙複写機「NP-L7」発売	
1973	● キヤノンドイツ設立 ● 日本初のフルカラー普通紙複写機を発表 ● 35mm映画用マクロズームレンズが米国映画アカデミー科学技術部門賞受賞	 AE-1
1974	● 前田武男、キヤノン株式会社代表取締役社長に就任	
1975	● キヤノンフランス設立 ● レーザービームプリンター(LBP)開発	 CR-45NM
1976	● 第一次優良企業構想スタート、キヤノン式開発・生産・販売システム検討委員会発足 ● キヤノンビジネスマシNZ(現キヤノンUK)設立 ● マイコン搭載カメラ「AE-1」発売、AE一眼ブームとなる ● 世界初の無散瞳眼底カメラ「CR-45NM」発売	 賀来 龍三郎
1977	● 賀来龍三郎、キヤノン株式会社代表取締役社長に就任 ● 35mm映画用レンズ「K-35シリーズ」が米国映画アカデミー科学技術部門賞受賞	 K-35
1978	● 製品別の事業部制を導入 ● キヤノンオーストラリア設立	

	● 世界初のリテンション方式複写機「NP-8500」発売	 NP-8500
	● 世界初のレーザー走査オートアライメント機構採用のマスクアライナー「PLA-500FA」発売	
1979	● キヤノンシンガポール設立	
	● 海外売上が初めて1,000億円を突破	
	● 半導体レーザー内蔵の「LBP-10」発売	 LBP-10

1980年代 第二の創業 企業理念「共生」を制定

1980	● 日本初のローマ字入力採用ワープロ「キヤノワード55」発売	 PC-10
1981	● プロ用システム一眼レフ「New F-1」発売	
1982	● 第二次優良企業構想スタート ● 世界初のカートリッジ方式複写機「ミニコピーPC-10/PC-20」発売	 LBP-8/CX
1983	● キヤノンプルターニュ(フランス)設立	
1984	● ヒューレットパッカード(米国)にレーザービームプリンターのOEM供給を開始 ● 世界最小・最軽量のレーザープリンター「LBP-8/CX」発売	 BJ-80
1985	● キヤノンバージニア(米国)設立 ● 世界初のバブルジェット方式インクジェットプリンター「BJ-80」発売	
1987	● 世界初のフルカラーデジタル複写機「カラーレーザーコピー1」発売 ● オートフォーカス一眼レフシステム「EOS」発表、「EOS 650」、「EFレンズ」発売	 カラーレーザーコピー1
1988	● 第二の創業を宣言、「共生」を企業理念とし、グローバル企業構想(5カ年)スタート ● キヤノンオプト(マレーシア)設立	
1989	● 山路敬三、キヤノン株式会社代表取締役社長に就任 ● キヤノン大連事務機有限公司(中国)設立	 EOS 650

1990年代 グローバル優良企業グループ構想 スタート

1990	● カートリッジ回収リサイクルプログラム開始 ● キヤノンインフォメーションシステムズR&Dヨーロッパ(現キヤノンリサーチセンターフランス)設立 ● キヤノンハイテクタイランド設立	 山路 敬三
1993	● 御手洗肇、キヤノン株式会社代表取締役社長に就任 ● 第二次グローバル企業構想(5カ年)スタート ● 環境憲章制定	 御手洗 肇
1994	● 社団法人発明協会の全国発明表彰で「BJプリンター装置の発明」が恩賜発明賞受賞	

1995	● 御手洗富士夫、キヤノン株式会社代表取締役社長に就任	 御手洗 富士夫
1996	● 「グローバル優良企業グループ構想」スタート ● APS対応のコンパクトカメラ「IXY」発売	
1997	● キヤノン(中国)有限公司設立	 IXY
1998	● 経営革新委員会発足 ● 生産革新が全社的にスタート ● 国内で複写機の再製造事業開始、複写機再製造の日米欧三極体制を確立 ● キヤノンミドルイースト(アラブ首長国連邦)設立	

2000年代 全主力事業世界No. 1をめざし、 デジタル化を推進

2000	● ニューヨーク証券取引所に上場(2023年3月上場廃止) ● コンパクトデジタルカメラ「IXY DIGITAL」発売 ● ドキュメント集配信機能を搭載した新世代ネットワーク複合機「iRシリーズ」発売	 IXY DIGITAL
2001	● ヨーロッパ本社・キヤノンヨーロッパLtd.(イギリス)設立 ● キヤノンベトナム設立	
2002	● 下丸子に新本社棟完成 ● プロ用最高級デジタルAF一眼レフカメラ「EOS-1Ds」発売	 imageRUNNER
2003	● 普及型デジタルAF一眼レフカメラ「EOS Kiss Digital」発売	
2004	● キヤノンロシア設立 ● イガリモールド(現キヤノンモールド)がグループ入り	 EOS-1 Ds
2005	● コンプライアンスカードをキヤノングループ社員11万人に配布 ● アネルバ(現キヤノンアネルバ)がグループ入り ● NECマシナリー(現キヤノンマシナリー)がグループ入り ● 「リアルタイムX線撮影装置用大画面センサーの発明」が恩賜発明賞受賞	 EOS Kiss Digital
2006	● 御手洗富士夫、キヤノン株式会社代表取締役会長 CEO、内田恒二、代表取締役社長COOに就任 ● 御手洗富士夫会長、社団法人日本経済団体連合会の2代目会長に就任 ● 「キヤノンマーケティングジャパン」にキヤノン販売が社名変更	 御手洗 富士夫
2007	● トッキ(現キヤノントッキ)がグループ入り ● 京都文化協会と文化財未来継承プロジェクト「綴プロジェクト」をスタート	 内田 恒二

●「imagePRESS C7000VP」発売、デジタル商業印刷市場に本格参入

●一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所、キヤノン財団設立

●デジタル一眼レフカメラとして初めてフルHD動画撮影を実現した「EOS 5D Mark II」発売

●キヤノンヨーロッパ、本社機能をロンドンに統合

●IT環境との連携を強化した新世代オフィスネットワーク複合機「imageRUNNER ADVANCE シリーズ」発売

imagePRESS C7000VP

EOS 5D Mark II

imageRUNNER ADVANCE

2010年代
現行事業の関連多角化
新たな成長に向けて挑戦

●オセ（現キヤノンプロダクションプリンティング）がグループ入り

●御手洗富士夫会長、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会の会長に就任

●キヤノンプラチンプリタイランド設立

●キヤノンビジネスマシナズフィリピン設立

●映像制作用のレンズ・カメラで構成する「CINEMA EOS SYSTEM」発表、映像制作市場へ本格参入

●御手洗富士夫、キヤノン株式会社代表取締役会長兼社長CEOに就任

●国立天文台ハワイ観測所の「すばる望遠鏡」の主焦点カメラにレンズユニットを搭載し、広視野化に貢献

●マサチューセッツ総合病院、プリガム・アンド・ウィメンズ病院との共同研究に合意

●小型・軽量のミラーレスカメラ「EOS M」発売

●「放送用HDビデオカメラ向けの大型CMOSセンサーの改良」が第64回技術工学エミー賞受賞

●御手洗富士夫会長、天皇陛下より旭日大綬章を受章

●キヤノンソリューションズアメリカ設立

●業務用30型4Kディスプレイ「DP-V3010」発売、4K映像制作ディスプレイ市場に参入

●御手洗富士夫会長、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の名誉会長に就任

●米国のモレキュラーインプリント（現キヤノンナノテクノロジーズ）がグループ入り

●マイルストーンシステムズ（デンマーク）がキヤノンヨーロッパのグループ入り

●3Dマシンビジョンシステム「RV1100」発売、マシンビジョン市場に参入

CINEMA EOS SYSTEM

御手洗富士夫

すばる望遠鏡

EOS M

DP-V3010

RV1100

●アクシス（スウェーデン）がグループ入り

●御手洗富士夫、キヤノン株式会社代表取締役会長 CEO、真栄田雅也、代表取締役社長 COO に就任

●東芝メディカルシステムズ（現キヤノンメディカルシステムズ）がグループ入り

●アクシスとレンズ交換式ネットワークカメラ「AXIS Q1659」を共同開発

●本社敷地内に商業印刷機の体験施設「カスタマーエクスペリエンスセンター東京」開設

●キヤノン電子が超小型人工衛星「CE-SAT-I」の打ち上げに成功

●ナノインプリント半導体製造装置「FPA-1200NZ2C」を東芝メモリ（現キオクシア）四日市工場に納入

●自由視点映像生成システムを開発

●UV硬化型大判プリンター「Colorado 1640」発売

●環境活動の発信拠点「キヤノンエコテクノロジーパーク」開所

●ソフトウェア研修施設「Canon Institute of Software Technology」開設

●映像解析ソフトウェアのリーディング企業であるブリーフカム（イスラエル）がグループ入り

●国立文化財機構と文化財高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト発足

●「EOS R システム」発表、フルサイズミラーレスカメラ「EOS R」、新マウント採用の「RF レンズ」発売

●インスタントカメラプリンター「iNSPiC ZV-123」発売

●御手洗富士夫会長、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の会長に就任

●キヤノンメディカルが世界初のディーブラーニングを活用したノイズ除去再構成技術搭載のMRI装置を発売

●ネイティブ4Kプロジェクター「4K6021Z」発売

●京都大学iPS細胞研究所と共同研究開始

●キヤノンの超高感度CMOSセンサー搭載の東京大学木曽観測所観測システム「トモエゴゼン」が本格始動

●「EOS シリーズ」が累計生産台数1億台達成

●8K放送用ズームレンズ「UHD DIGISUPER 51」発売

●日本医療機器開発機構に出資

●群衆人数を算出する映像解析技術を開発

御手洗富士夫

真栄田雅也

AXIS Q1659

CE-SAT-I

FPA-1200NZ2C

EOS R

iNSPiC ZV-123

ディーブラーニングを活用したMRI装置

UHD DIGISUPER 51

2020年以降
変身と挑戦で
戦略的大転換を促進

●「キヤノンプロダクションプリンティング」にオセが社名変更

●超高感度多目的カメラ「ME20F-SH」が第71回テクノロジー & エンジニアリングエミー賞受賞

●御手洗富士夫、キヤノン株式会社代表取締役会長兼社長CEOに就任

●世界初100万画素SPADイメージセンサーを開発

●Visual SLAM技術を開発し、移動ロボット市場に参入

●ネットワーク経由で複数のカメラを制御できる映像制作用リモートカメラシステムを発売

●御手洗富士夫会長、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟の総裁に就任

●フルサイズ裏面照射積層型CMOSセンサーを搭載のフルサイズミラーレスカメラ「EOS R3」発売

●キヤノンメディカルが国立がん研究センターとフォトンカウンティングCTの共同研究を開始

●放射線検出とイメージングの先進技術をもつレドレンテクノロジーズ（カナダ）がグループ入り

●VR映像撮影システム「EOS VR SYSTEM」発売

●「キヤノングループ人権方針」を公開

●カメラ任せの記録が可能な自動撮影カメラ「PowerShot PICK」発売

●キヤノンメディカルがディーブラーニングを応用した超解像画像再構成技術（PIQE）搭載のX線CT診断装置を発売

●世界初の水性顔料蛍光インク搭載の大判プリンター「GP シリーズ」発売

●320万画素SPADセンサーを開発

●キヤノンオプトロンが酸化物固体電解質を開発

●ラベル・パッケージ印刷機メーカーであるイーデール社（英国）がキヤノンプロダクションプリンティングのグループ入り

●半導体露光装置のサポート業務効率化を実現するソリューションプラットフォーム「Lithography Plus」発売

●アクシス製ネットワークカメラにAI機能を追加することができる「AI アクセラレーター AS-AN11」発売

ME20F-SH

御手洗富士夫

100万画素SPADセンサー

EOS R3

VR用レンズ RF5.2mm F2.8 L DUAL FISHEYE

PowerShot PICK

超解像画像再構成技術を搭載したX線CT診断装置

imagePROGRAF GP

320万画素SPADセンサー

2023

●キヤノンヘルスケアUSA（米国）設立

●キヤノンメディカルが国立がん研究センターとフォトンカウンティングCTの臨床研究を開始

●薄型・軽量、高精度の力覚センサー「FH-300-20」発売

●気軽に動画撮影を楽しめるVlogカメラ「PowerShot V10」発売

●世界初のカラー撮影用SPADセンサー搭載超高感度カメラ「MS-500」発売

●ナノインプリントリソグラフィ技術による半導体製造装置「FPA-1200NZ2C」発売

●新製品や将来技術を示した「Canon EXPO 2023」を横浜にて開催

●東京大学・キヤノン・キヤノンメディカルが産学協創協定を締結

●クリーブランド・クリニック（米国）と戦略的研究パートナーシップに合意

2024

●ハイデルベルグ（ドイツ）と枚葉インクジェット印刷機販売に関するグローバル業務提携に合意

●独自のトラッキング型ラマン分光技術により黒色を含むプラスチック片の高精度選別装置を受注開始

●ペロブスカイト太陽電池の耐久性と量産安定性の向上が期待される高機能材料を開発

●「EOS R システム」初のフラッグシップ機「EOS R1」発売

●高解像度を実現する新技術「D2 Exposure」を搭載したカラー複合機「imageFORCE シリーズ」発売

FH-300-20

PowerShot V10

MS-500

FPA-1200NZ2C

EOS R1

imageFORCE

詳しい「キヤノンの歴史」は [こちら](#)から